



Nissan Chemical
CORPORATION

農業化学品事業説明会

2026年1月13日

日産化学株式会社
農業化学品事業部・物質科学研究所・生物科学研究所

Contents

- 01
- 02
- 03
- 04

事業環境

農業化学品セグメントの成長戦略

新製品・パイプライン

バイオ農薬

Contents

- 01
- 02
- 03
- 04

事業環境

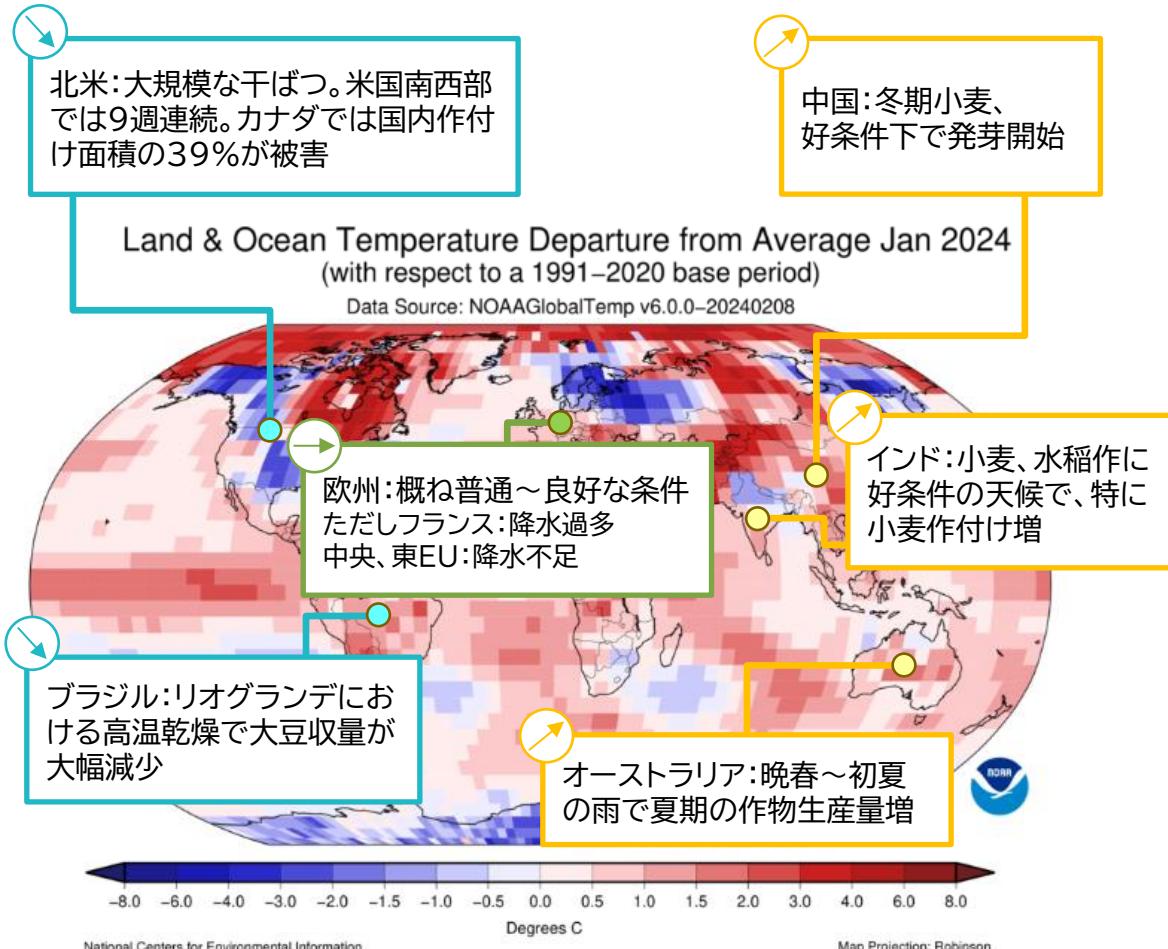
農業化学品セグメントの成長戦略

新製品・パイプライン

バイオ農薬

世界的な気候変動

好・悪材料混在し、影響は限定的

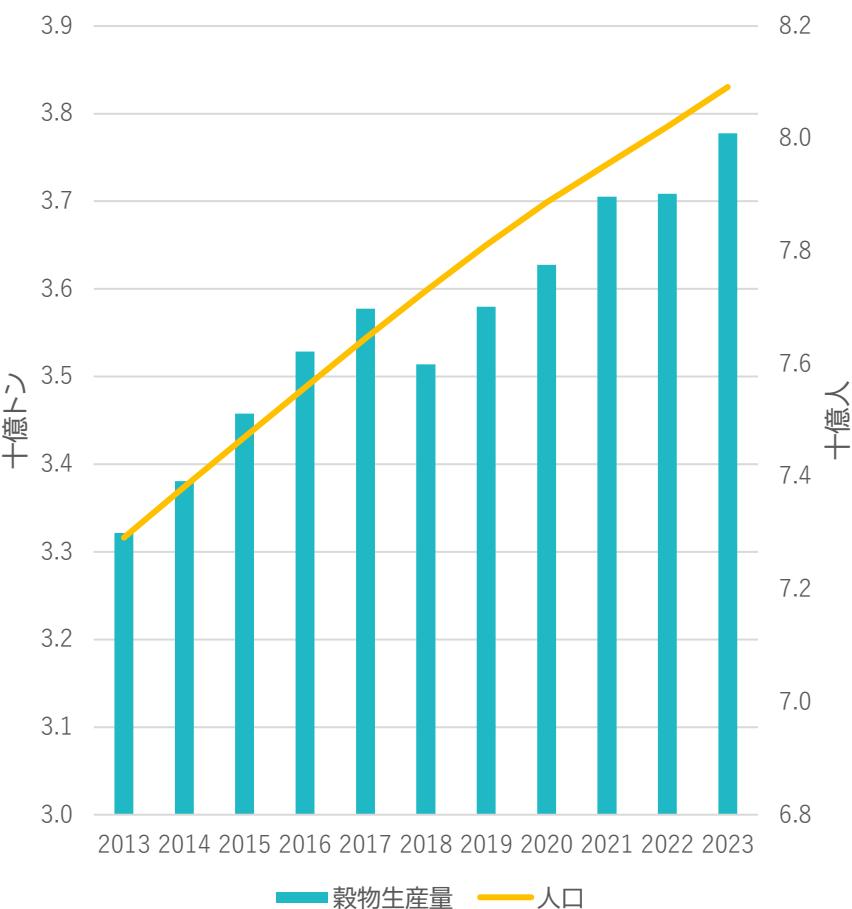


出典 MAP : NOAA GlobalTemp v6
Content : Agbio

人口増加に伴う食料需要増

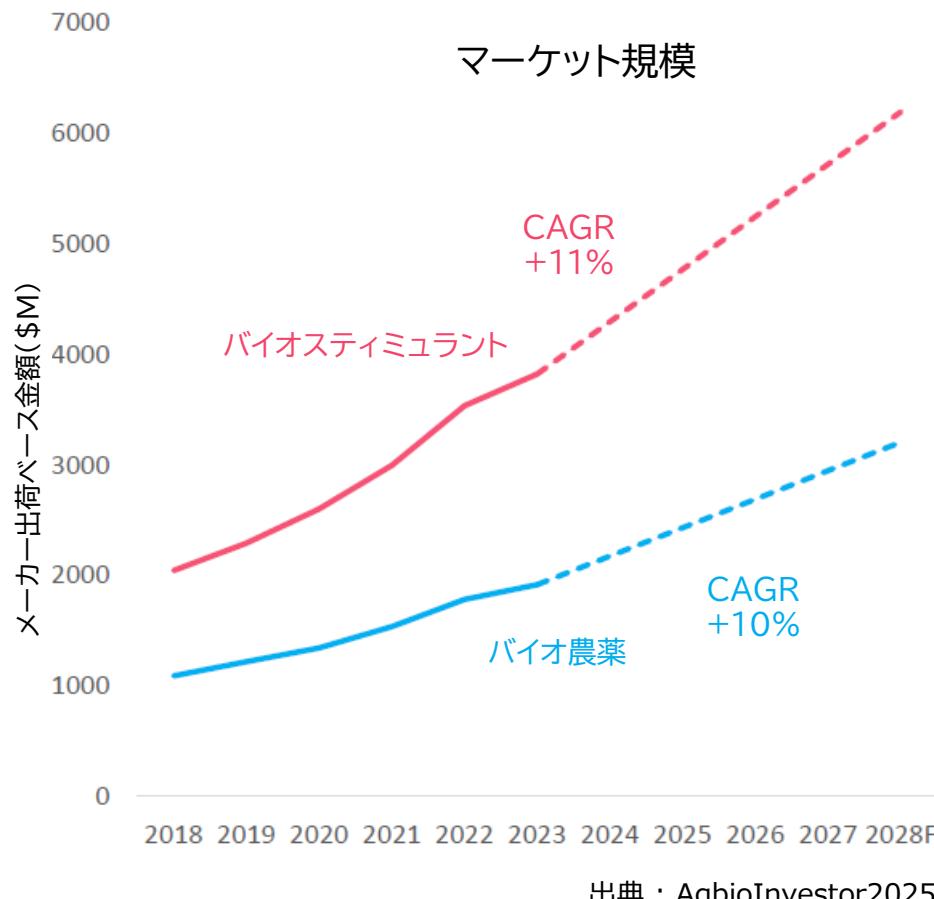
穀物生産量：1.2倍(23年/13年)

人口：80億人超

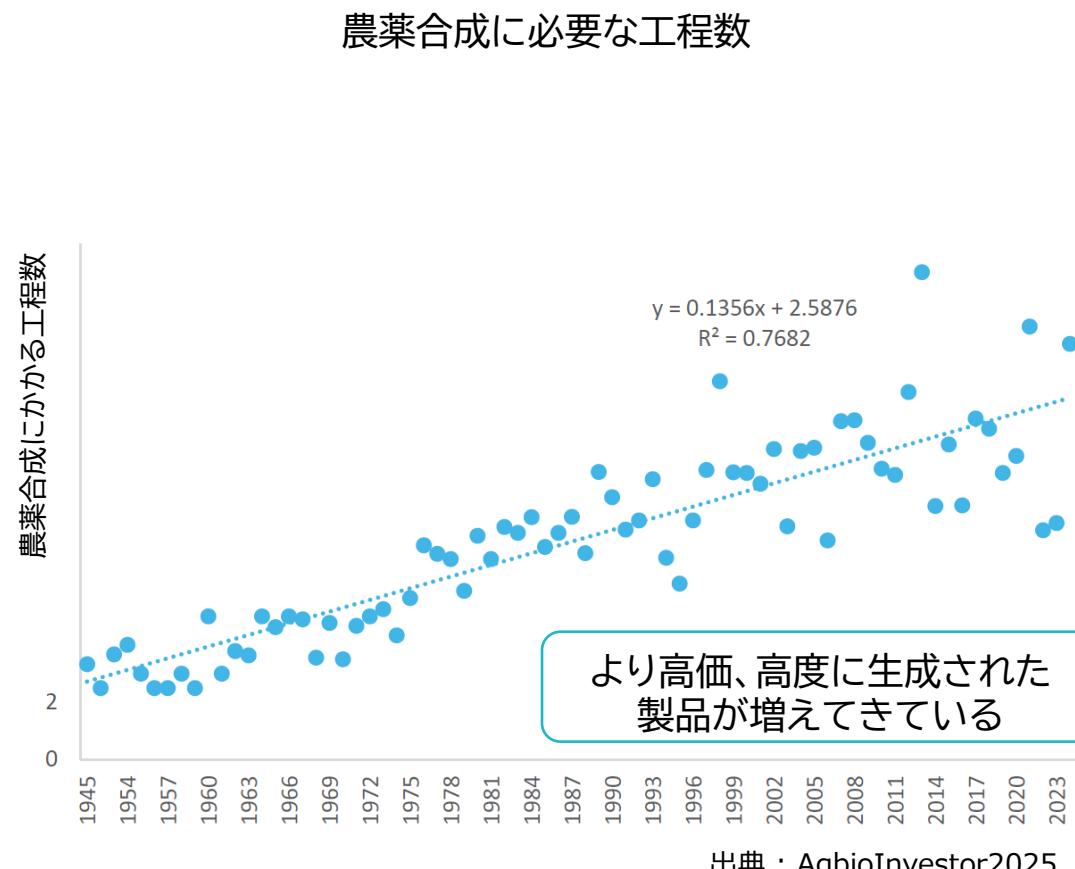


高付加価値製品が世界市場ではよりプレゼンスを高めている

バイオロジカル市場の伸長



高度化する農薬合成



国別農薬市場規模(\$M)

順位	国名	2019	2023
1	ブラジル	10,309	16,279
2	アメリカ	7,813	10,653
3	中国	6,481	7,857
4	アルゼンチン	2,836	3,452
5	インド	2,521	3,219
6	日本	3,412	2,838
7	フランス	2,079	2,364
8	オーストラリア	1,399	2,153
9	ロシア	1,505	1,776
10	ドイツ	1,504	1,747
(参考)	為替レート(円/ドル)	109	141

順位	国名	2019	2023
11	カナダ	1,586	1,726
12	イタリア	1,196	1,370
13	メキシコ	903	1,278
14	スペイン	1,070	1,092
15	イギリス	687	896
16	ベトナム	705	863
17	チリ	553	737
18	ルーマニア	551	708
19	韓国	711	672
20	ポーランド	514	603
	世界合計	59,279	74,806

出典 : AgbioInvestor

農薬市場における日産化学のポジション

海外農薬市場

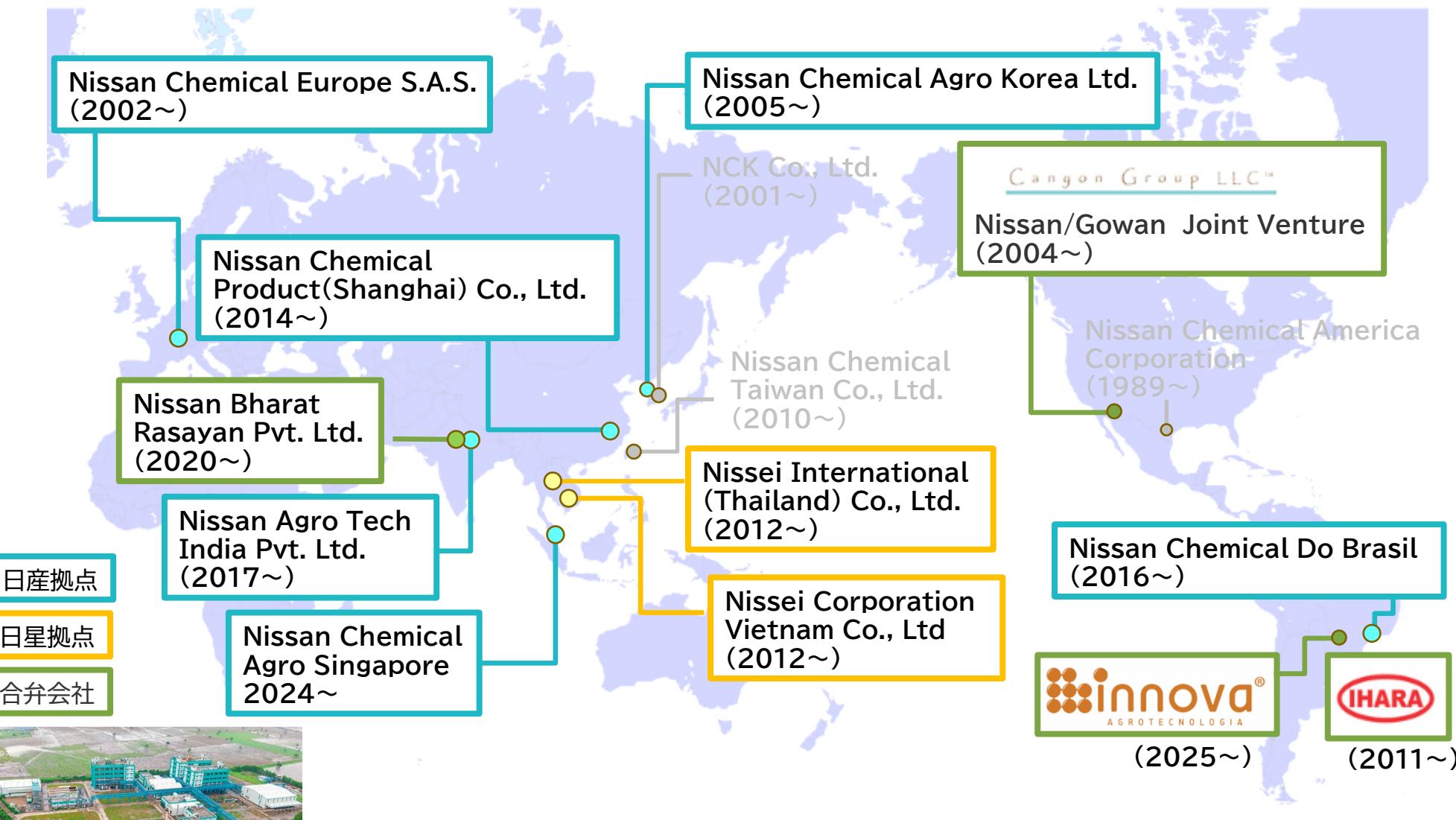
順位	メーカー
1	Syngenta
2	Bayer
3	BASF
4	Corteva
5	UPL
6	FMC
7	Adama
8	Sumitomo Chemical
:	:
13	Kumiai Chemical
15	Nihon Nohyaku
17	Mitsui Chemicals CLS
19	Nissan Chemical
22	Nippon Soda

国内農薬市場

順位	メーカー	シェア
1	日産化学	17%
2	シンジェンタ	13%
3	住友化学	11%
4	三井化学クロップ＆ライフソリューション	11%
5	クミアイ化学工業	10%
6	バイエルクロップサイエンス	9%
7	北興化学工業	8%
8	BASFジャパン	7%
9	日本農薬	7%
10	日本曹達	6%

出典：農薬要覧(2023年)より推定

出荷金額で国内業界1位を継続 (2015年～)



Nissan Bharat
Rasayan Pvt. Ltd.

農業化学品事業を取り巻く環境

- 海外市場の需要増加、国内市場の成熟
- 新規農薬の開発コスト増、登録制度の厳格化
- 化学農薬からバイオ農薬への転換
- 各社M&Aにより規模拡大、研究開発力を強化

Contents

- 01
- 02
- 03
- 04

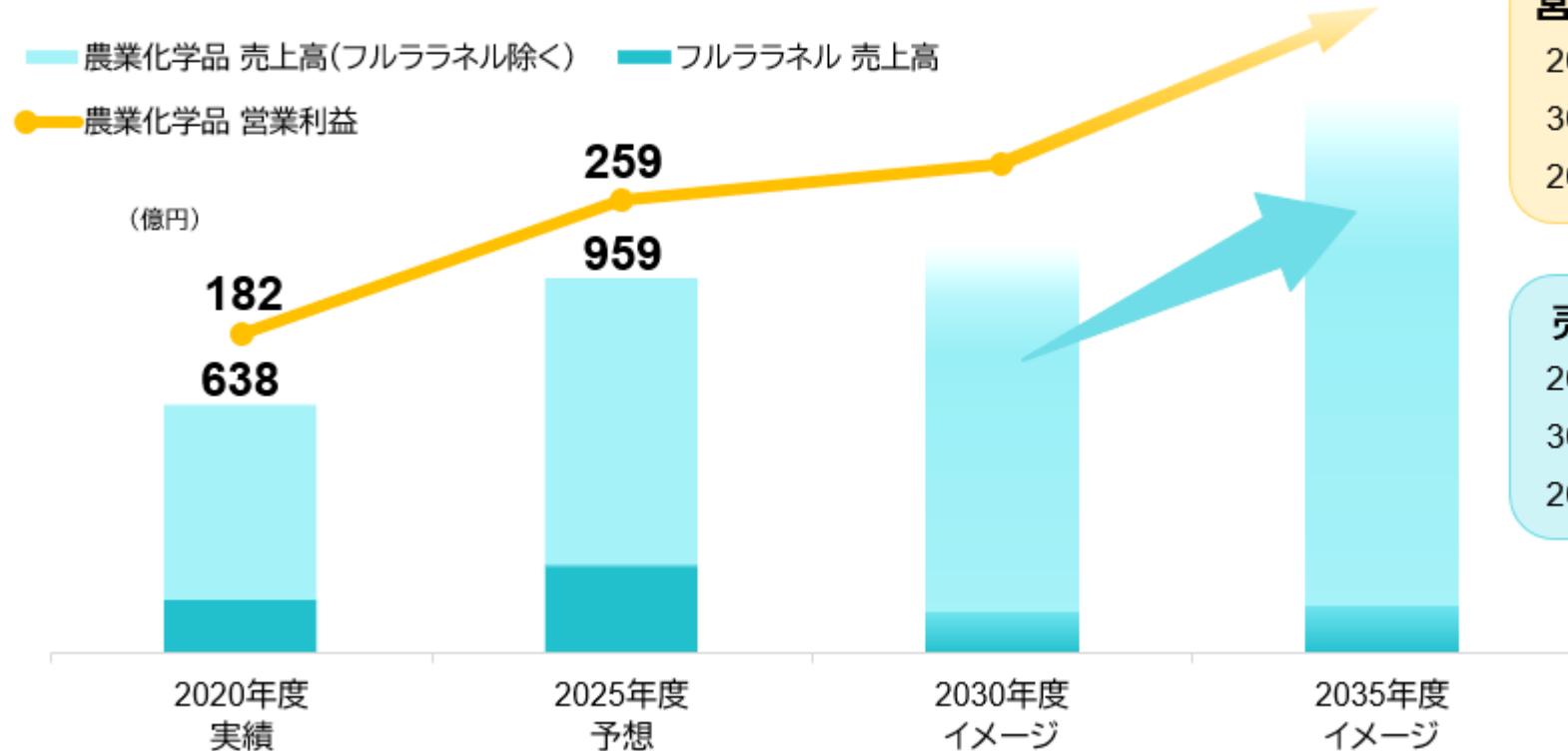
事業環境

農業化学品セグメントの成長戦略

新製品・パイプライン

バイオ農薬

売上高・営業利益 成長イメージ



営業利益 CAGR

20年-25年 +7%

30年-35年 +6%

20年-35年 +5%

売上高 CAGR

20年-25年 +9%

30年-35年 +6%

20年-35年 +6%

更なる成長に向けた主要戦略

- パイプライン強化: ライゾニック(NC-656)、プレシオ(NC-520)、新規剤(殺虫・殺菌・動物用寄生虫)
- コストダウン: サプライヤー再考、製造工程見直し、新法導入
- バイオ農薬: 自社開発力向上、他社資本参加、生産拠点立上げ、販売体制整備、新剤上市
- M&A・製品買収: 国内外でのM&A・製品買収を積極的に実行

国内農薬

⇒ p13-p14

- 国内販売シェア1位の堅持
- 新規剤投入による更なる持続的成長、シェア拡大

ラウンドアップ

⇒ p15-p17

- 拡大する市場への独自散布技術提案による販売拡大

海外農薬

⇒ p19-p22

- 高付加価値剤を市場に提供、ジェネリックとの差別化を図る

動物薬 (フルララネル)

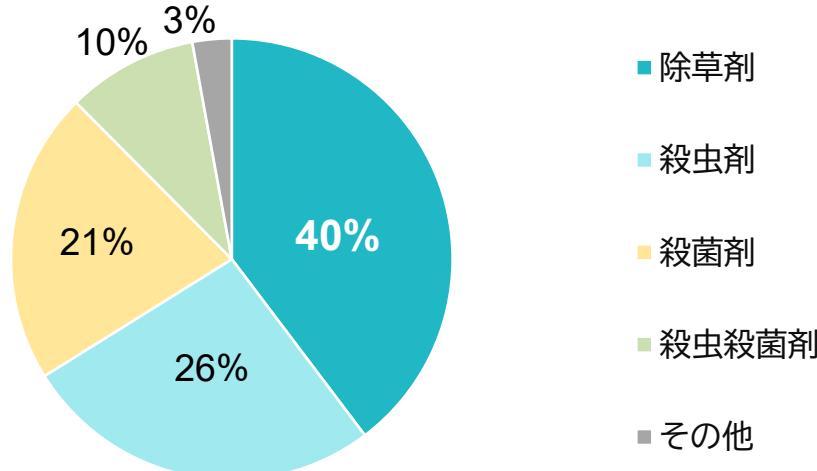
⇒ p23-p24

- MAH※1社の新製品による市場拡大
- 原薬製造コスト低減によるジェネリック対抗

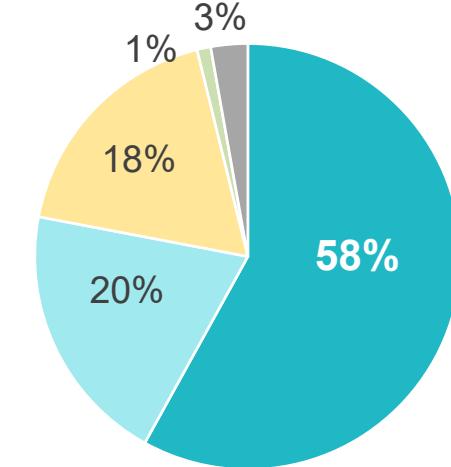
※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称

2024農年 ポートフォリオ (農年:10月～9月)

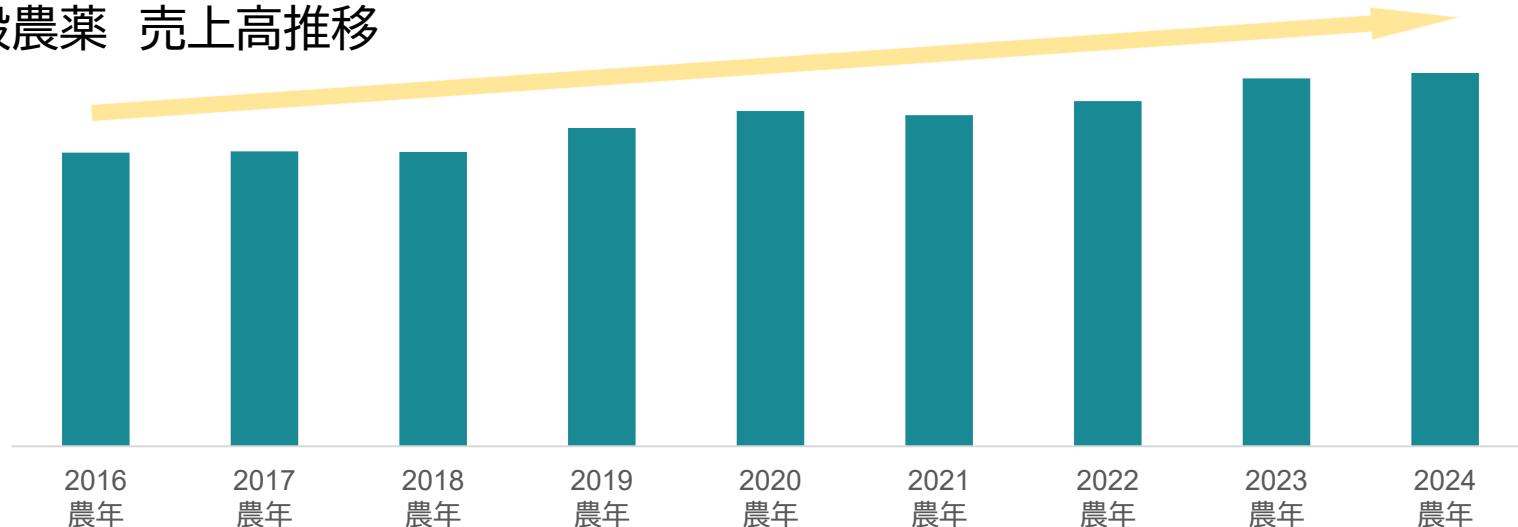
国内農薬市場 構成比



当社一般農薬 売上高構成比
(ラウンドアップを除く)



当社一般農薬 売上高推移

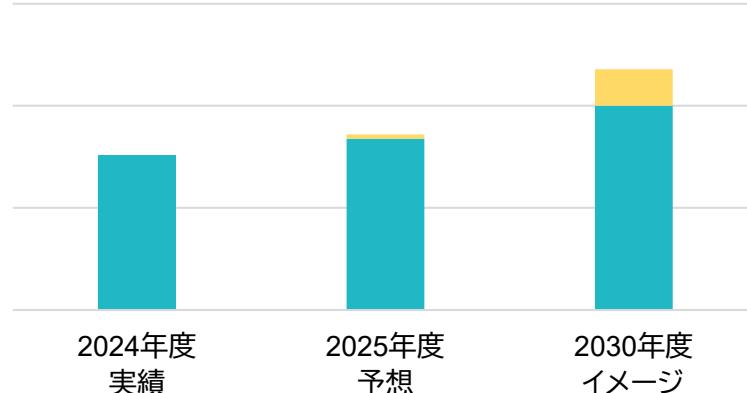


ベルダー、新剤計画

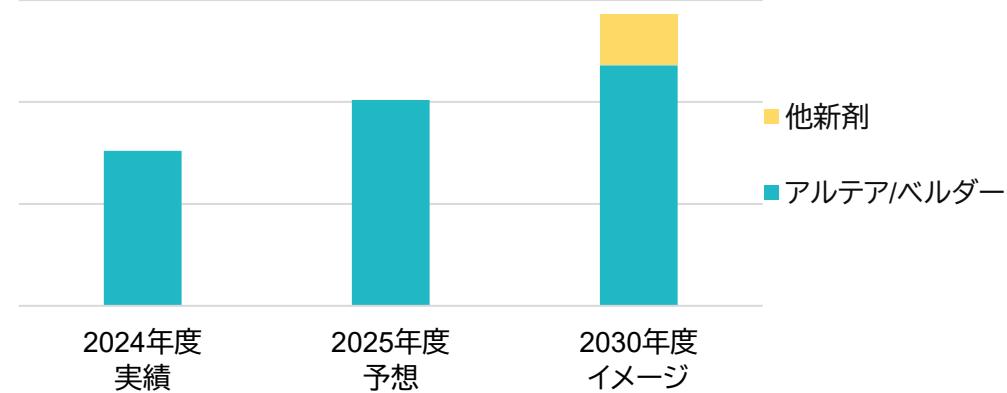
製品名	分類	開発ルート	施策
ベルダー	除草剤	自社	自販: 30年までに4剤を投入を計画 外販: 積極的な導出で伸張
ライゾニック (イプトリアゾピリド) NC-656	除草剤	自社	抵抗性イネ科雑草に優れた効果を持つ、 当社初の水稻用茎葉除草剤
プレシオ (フェンメゾジチアズ) NC-520	殺虫剤	共同開発	BASF社との共同開発の新規水稻用殺虫剤、 ウンカ類への効果が高い
その他		導入	2030年までに導入3剤を市場に投入予定

アルテア/ベルダー、新剤計画 売上高推移

Vista2027 Stagell (2025年5月時点)



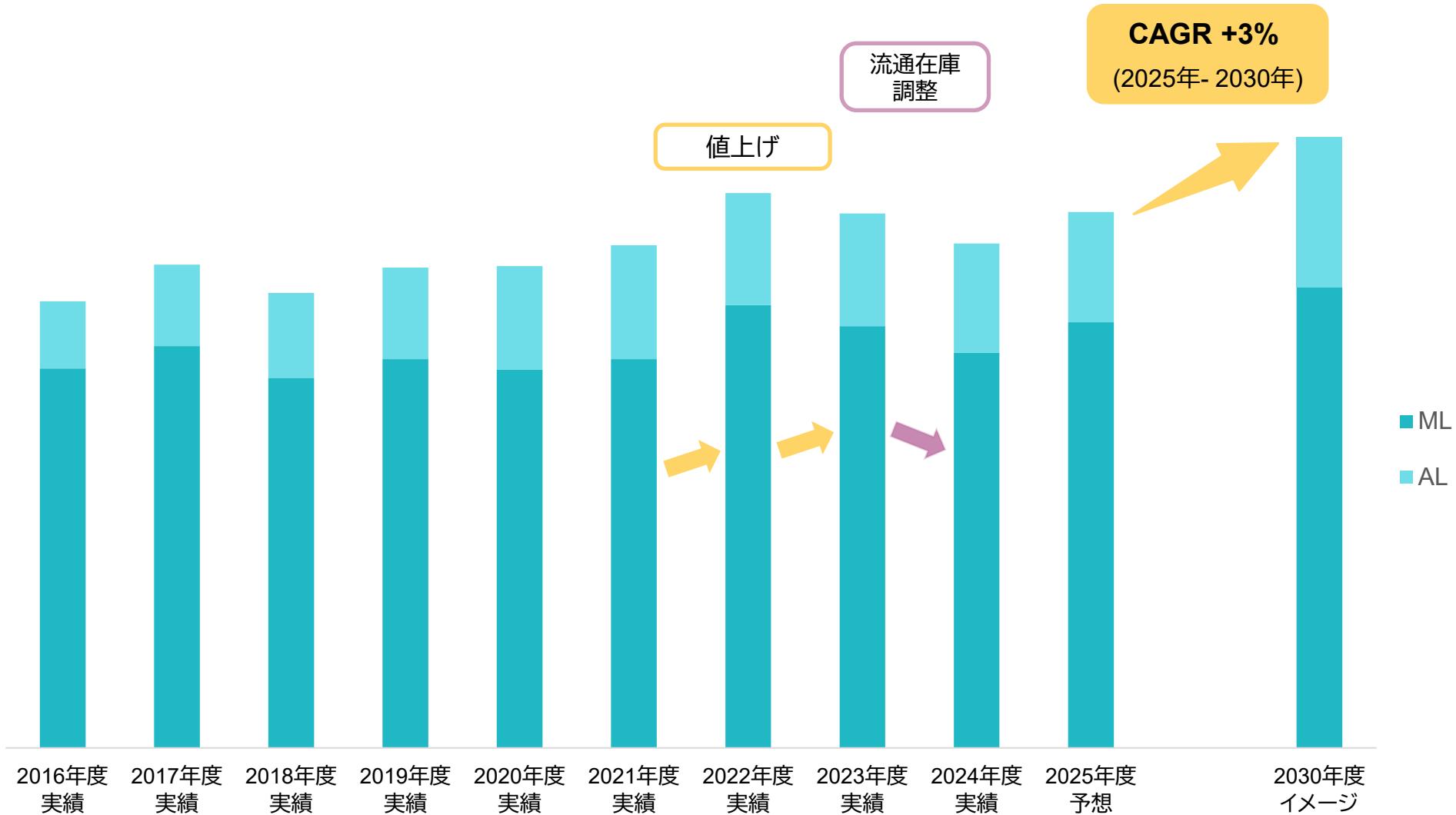
見直し計画 (2026年1月時点)



ラウンドアップ：売上高推移

ラウンドアップ 売上高推移(ML、AL)

これまで着実な売上高成長を遂げており、今後も堅調な成長を見込む



国によるサポート強化場面での市場獲得

乾田直播



2027年度 政府の補助金支給
により面積拡大が加速

飼料作物



2027年度 水田活用直接支払交付金
の見直しにより飼料作物の栽培拡大へ

農業生産者の省力化に貢献



ラウンドアップマックスロード専用の散布ノズル
「ULV5」による省力化提案



ULV5ブーム用発売後の200Lドラム販売量推移

発売前→2025年 +50%

200L Drum

2020農年 2021農年 2022農年 2023農年 2024農年 2025農年

緑地・耕作放棄地における事業を通じた社会貢献

道路



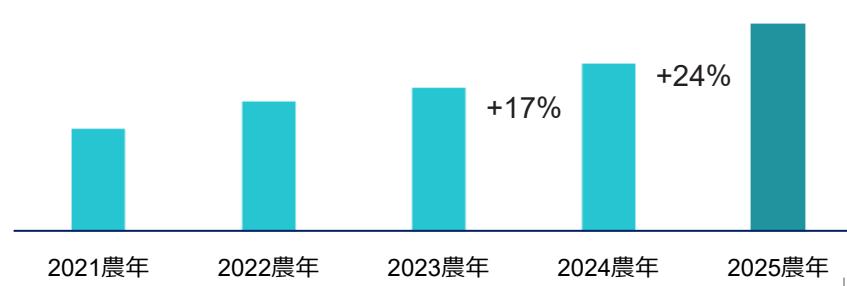
耕作放棄地



一般家庭向けAL販売流通の最大化

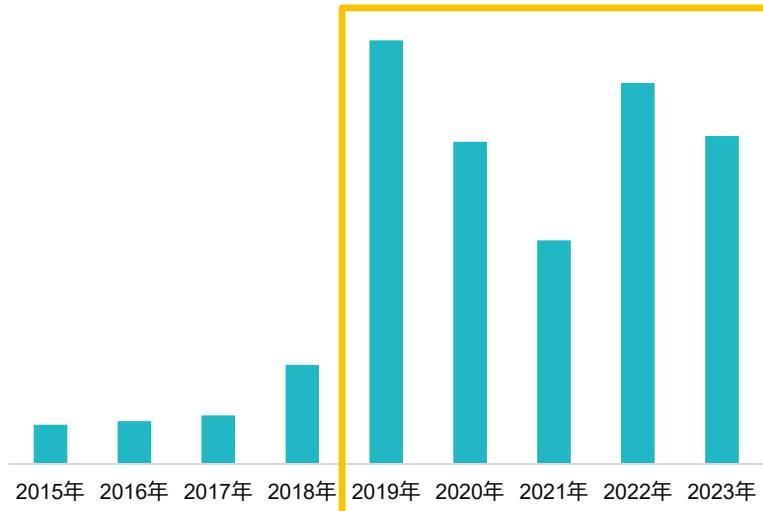
- ・ホームセンター、ドラッグストア販売の最大化
- ・スーパーマーケット流通への商品導入拡大
- ・EC、事業系ECへのサポート強化

ラウンドアップEC市場売上推移



ラウンドアップの安全性に関するSNS等での誹謗中傷問題

年間ネガティブ投稿数の推移



2018年 IARC(国際がん研究機関)がグリホサートを「グループ2A(ヒトに対しておそらく発がん性がある)」に分類以降年間数十万件のネガティブ投稿

参考 ➔ [ラウンドアップの現状説明会資料](#) (2020年1月22日発表)

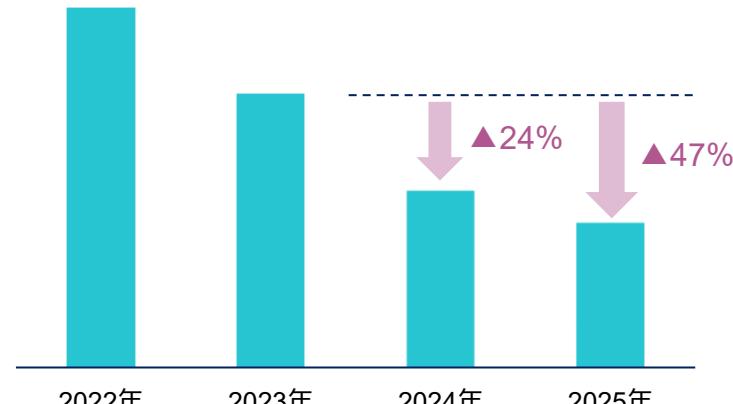
誹謗中傷への対応

対応リスト

- 2024年2月 ラウンドアップの安全性公式X開設
- 2024年3月 誹謗中傷に対する法的措置検討開始
- 2024年8月 発信者情報開示請求実施
その後警告文、投稿削除要請送付
- 2025年3月 未対応の複数名に対し訴訟提起
- 2025年8月 当社勝訴または和解による和解金受領

各対応について公式Xにて発信

訴訟後のネガティブ投稿数 (起訴前後各年2月~8月)

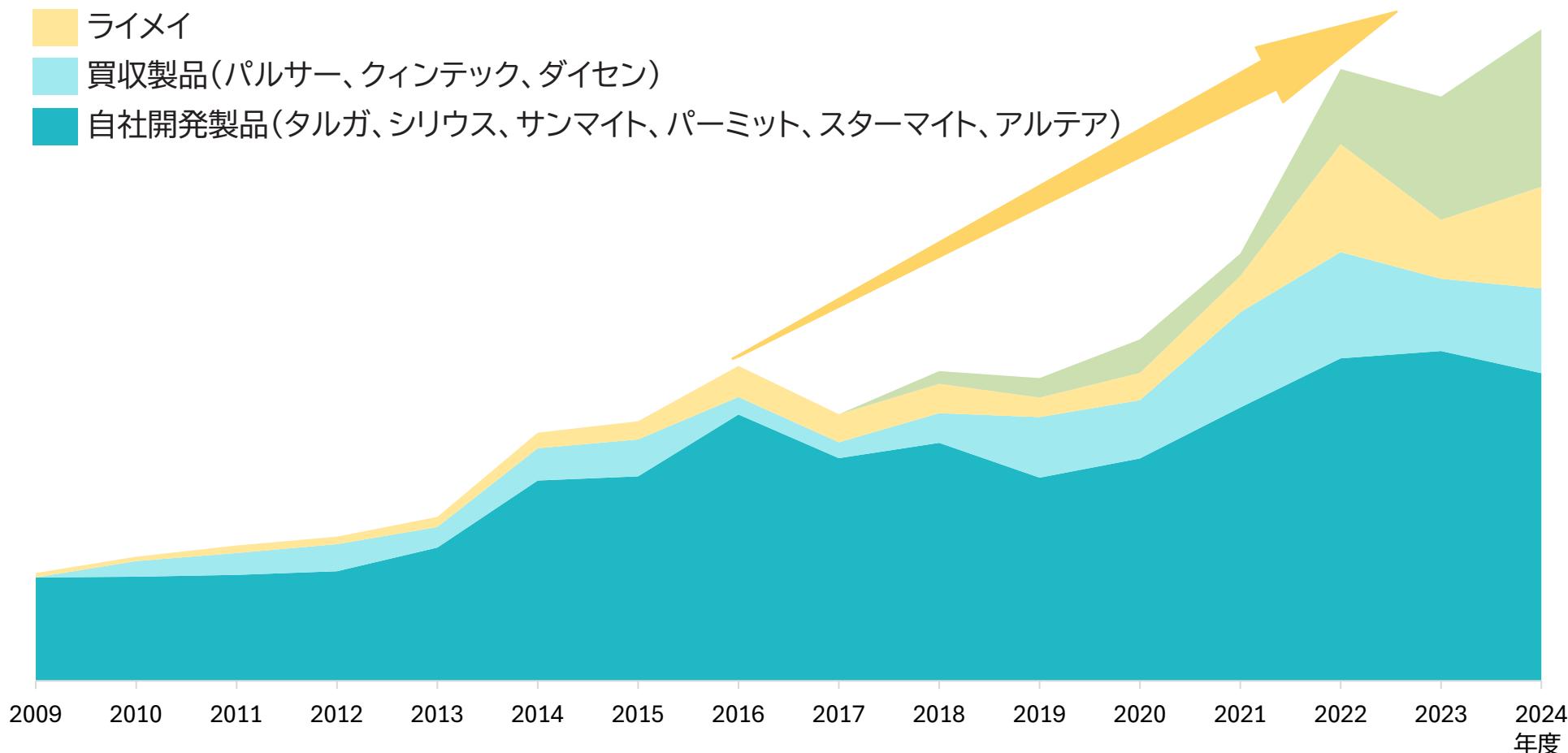




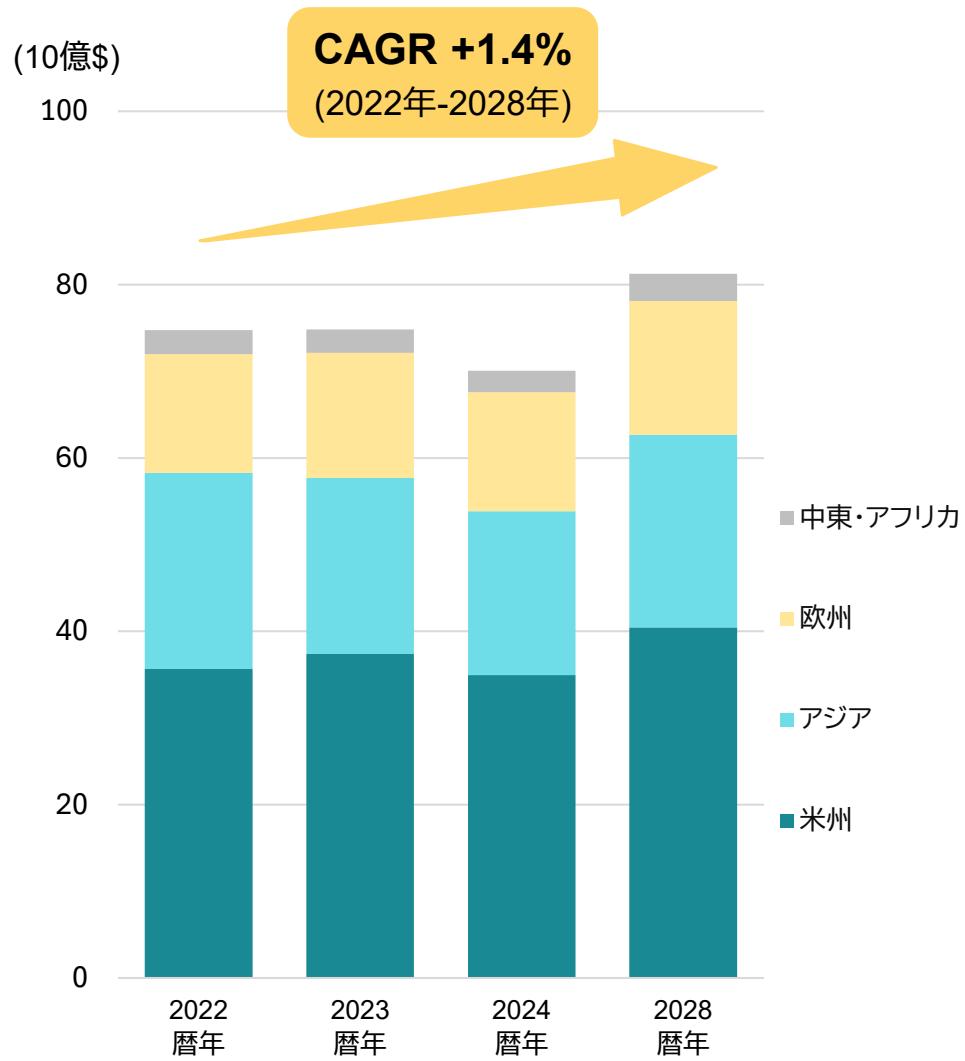
継続的に新剤・買収剤市場投入

混合剤・新規市場・用途開発による持続的成長

- グレーシア
- ライメイ
- 買収製品(パルサー、クインテック、ダイセン)
- 自社開発製品(タルガ、シリウス、サンマイト、パーミット、スターマイト、アルテア)



世界の農薬市場は堅調に推移



出典: AgbioInvestor2021-25

当社はアジアを中心に重要セグメントを展開

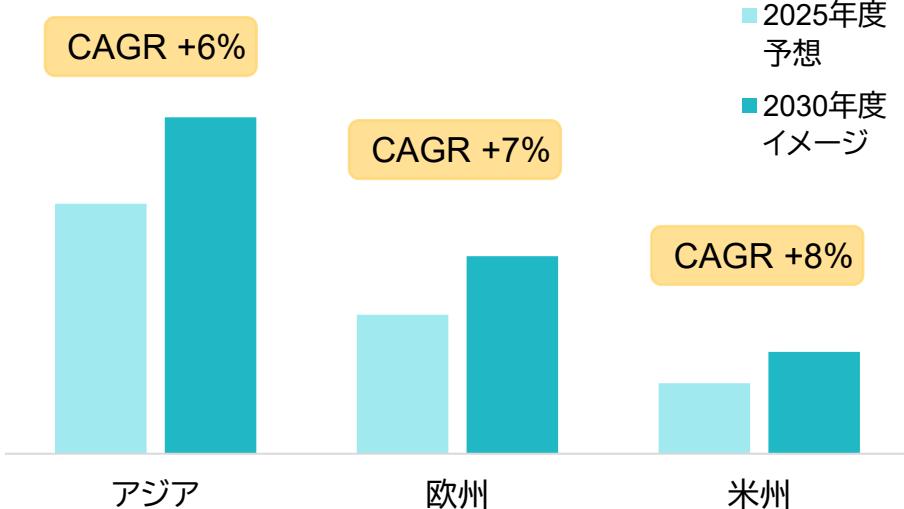
地域		米州	アジア	欧州	中東・アフリカ
市場規模 2025 (百万\$)		35,613	19,519	13,851	2,565
当社製品	除草剤	タルガ	✓	✓	✓
		パーミット	✓	✓	✓
		シリウス	✓	✓	
		アルテア		✓	
		ベルダー		✓	
		ライゾニック	✓	✓	
	殺虫剤	サンマイト	✓	✓	✓
		スターマイト	✓	✓	
		グレーシア		✓	
	殺菌剤	ライメイ	✓	✓	✓

※1 緑網掛: 上市予定製品

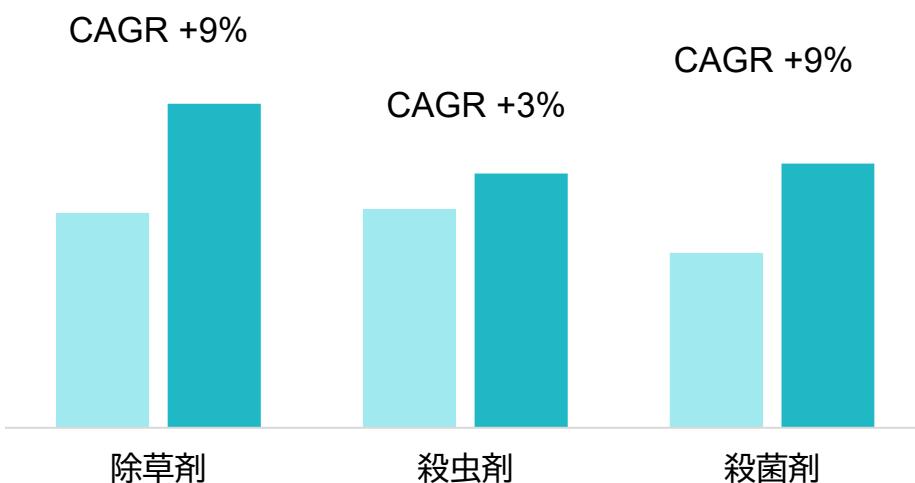
海外農薬 売上高イメージ



地域別 売上高イメージ (CAGR 2025年 - 2030年)



剤別 売上高イメージ (CAGR 2025年 - 2030年)



アジア

CAGR +6%

(2025年-2030年)

- グレーシアのインド、韓国、東南アジアでの拡販・新規国上市
- インドのタルガジェネリック差別化
- ベルダー、ライゾニックの上市

欧州

CAGR +7%

(2025年-2030年)

- ライメイの複数マルチ企業混合剤向け拡販
- バイオ資材導入検討

米州

CAGR +8%

(2025年-2030年)

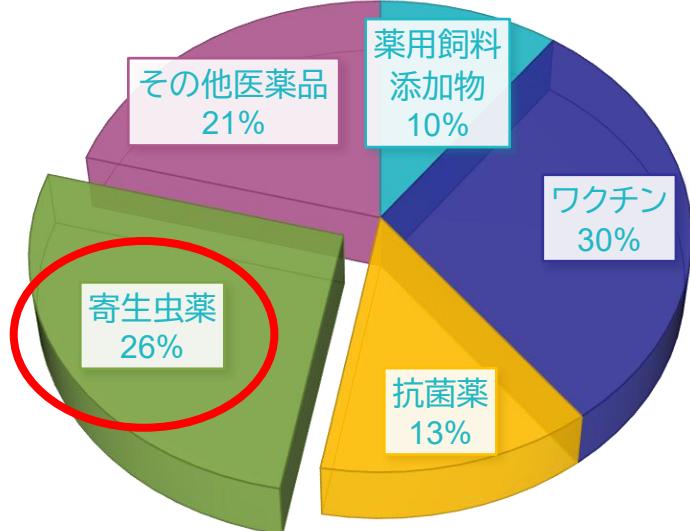
- 提携先協業強化、適用拡大による既存剤拡販
- ライゾニックの上市

その他地域

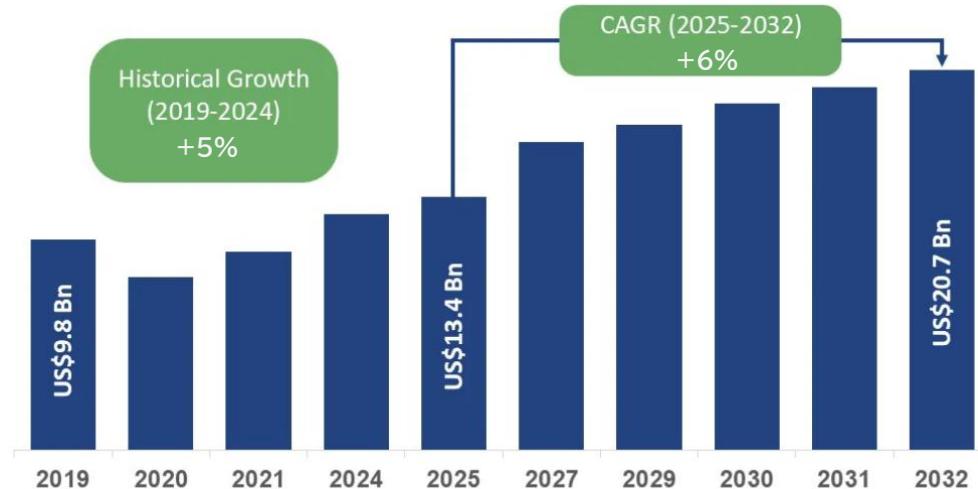
- 中東・アフリカでのグレーシア、ライメイの拡販・新規国上市

動物薬市場

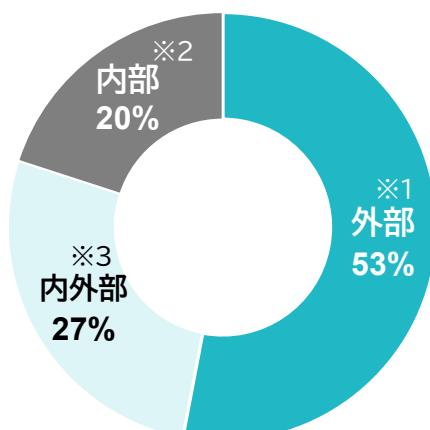
2024 Total: \$ 41,420M



寄生虫薬市場推移



寄生虫薬市場構成 (2022年)



※1 外部: 外部寄生虫に効果を示す寄生虫薬（例: ノミ、マダニ、シラミなど）
 ※2 内部: 内部寄生虫に効果を示す寄生虫薬（例: フィラリア、鉤虫、回虫など）
 ※3 内外部: 外部・内部寄生虫の両方に効果を示す寄生虫薬

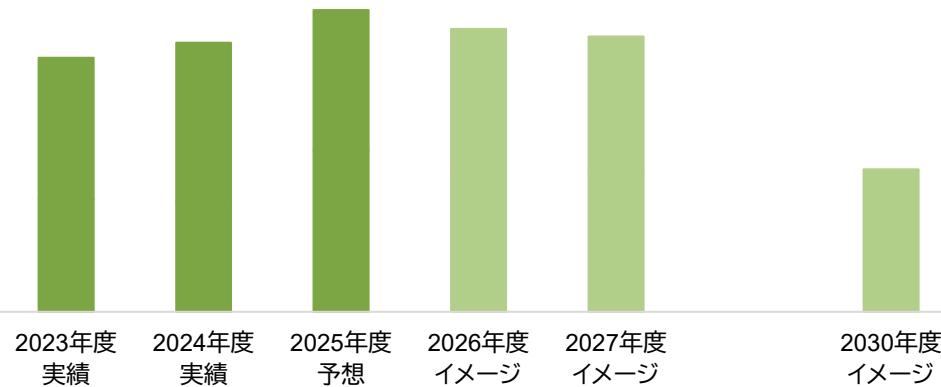
- 寄生虫薬市場は今後も安定成長を見込む
- 外部寄生虫薬(約50%)から内外部寄生虫薬へのシフトが加速すると予測
- ジェネリックはOTC市場が中心
ブラベクト®(処方薬)への影響は限定的と予想

動物薬：フルララネル

当社のフルララネル売上高の構成

MAH^{※1}社へのフルララネル原薬販売 + MAH社からのランニングロイヤリティ(RR)

2023～2030年度 フルララネル売上高推移イメージ(RR含む)



売上高推移イメージの前提(当社推定)

- 国別の特許の延長・失効を織り込む
- 原薬販売は独占契約延長により堅調に推移
- 2026年度以降の想定為替レートは140円/ドル
- ブラベクト®及びエグゾルト®の新製品上市に伴う販売増は織り込んでいない

MAH社の新製品開発状況

1. BRAVECTO® Quantum(注射剤):効果が12か月持続する超長期作用型

上市時期:欧州=2024年、米国=2025年、日本=登録申請済み

獣医チャネルでのプレミアムポジション確保、長期作用型市場の先駆け

2. BRAVECTO® TriUNO(3成分合剤):MAH社初のトリオ製剤(フルララネル+モキシデクチン+ピランテル)

上市時期:欧州=2025年、米国=2026年、日本=登録申請済み

内外部寄生虫市場での競争力強化、Simparica Trio等への対抗

3. その他フルララネル新製剤(複数):ペット分野・家畜分野を対象

ポートフォリオ拡充によるLCM(ライフサイクルマネージメント)、ブランド価値の維持

4. 新規寄生虫薬(当社との共同開発)

耐性問題への対応、フルララネルとの包括的寄生虫防除ソリューションの実現

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称

Contents

- 01
- 02
- 03
- 04

事業環境

農業化学品セグメントの成長戦略

新製品・パイプライン

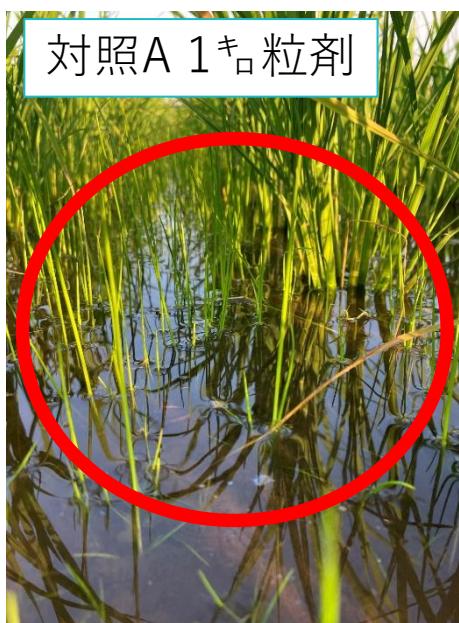
バイオ農薬

- ベルダー →p27-p28
- ライゾニック →p29-p30
- プレシオ →p31
- 農薬新剤 創製研究 →p32

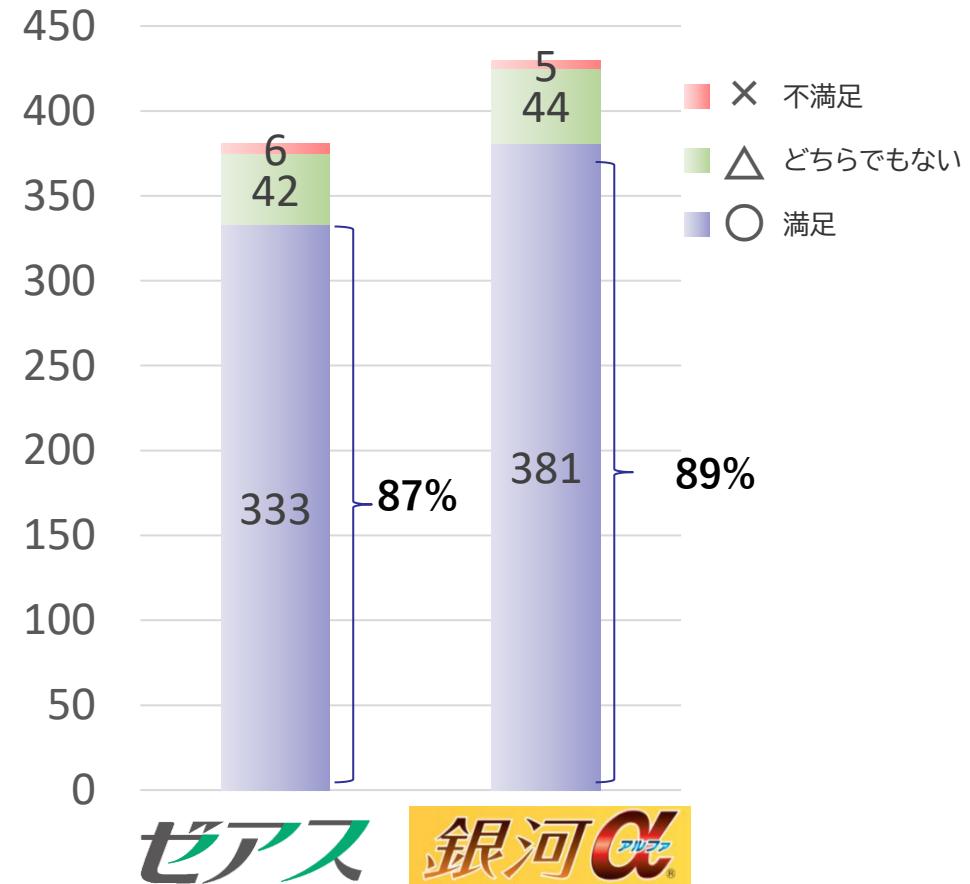
- 水稻用除草剂
- イネへの優れた安全性があり、
抵抗性ホタルイや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ
- 2024年度に日本で上市、韓国向け開発中
- ピーク時売上高目標:60億円



新製品・パイプライン: ベルダー 上市初年度の評価



～アンケート集計結果(使用満足度)～



生産者から高い評価を得た

- 水稻用茎葉除草剤
- HPPD阻害で薬剤抵抗性系統を含むイネ科雑草に高い効果を発揮
- 移植栽培・直播栽培の両方に適用可能 → 世界各国で開発
- 直播栽培は、労働力省力化・水使用量削減・メタン排出量減少に寄与



生産性向上と環境負荷低減の両立に貢献する新たな選択肢

- 2027年度上市予定
- ピーク時売上高目標150億円(従来100億円から上方修正)

～処理区～



散布当日(0日)

3日後

7日後

14日後

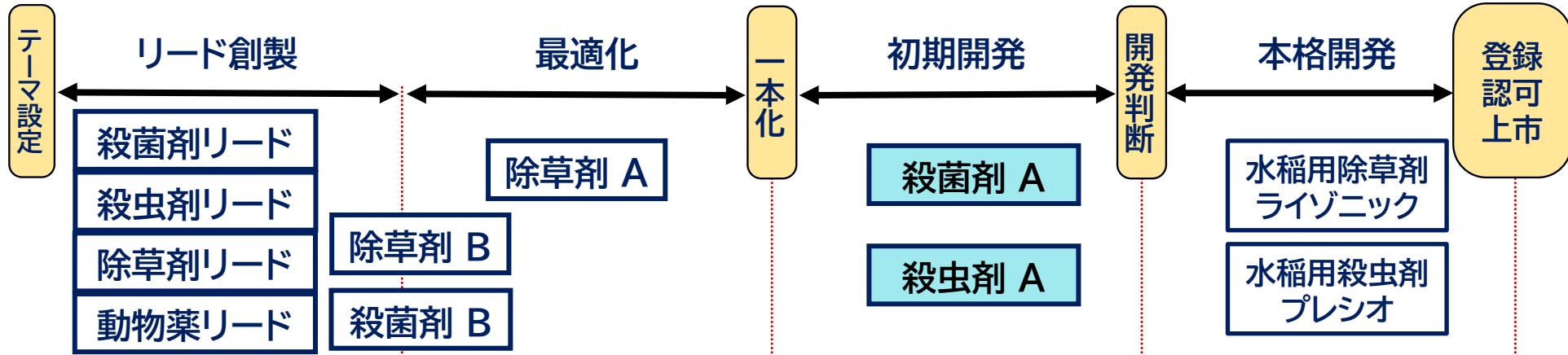
21日後

～無処理区～



- BASF社創製・戦略的提携による国内共同開発中の新規殺虫剤
- 位置付け:水稻用箱剤の殺虫成分
- ウンカ類、ツマグロヨコバイに卓効
 - +イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ等の初期害虫にも有効
- 自社混合剤開発によるポートフォリオの充実、他社への積極導出
- 2028年度上市予定
- ピーク時売上高目標25億円(混合剤を含む)





殺菌剤A: 市場規模 \$ 3,000Mへ投入



灰色かび病



イネいもち病



ダイズさび病



うどんこ病

殺菌剤…主に糸状菌の感染により引き起こされる病害の防除剤



ハスモンヨトウ



アブラムシ



アザミウマ



ハダニ

殺虫剤…主に昆虫による食害・吸汁害の防除剤

除草剤…雑草の繁茂を防ぐ薬剤

動物薬…寄生虫防除剤



イヌビエ



イヌホタルイ



コナギ

リード化合物の質・量の充実
CADD等利用したドラッグデザイン
アウトソーシングを活用し、合成効率化
早期に安全性プロファイリングを実施

Contents

- 01
- 02
- 03
- 04

事業環境

農業化学品セグメントの成長戦略

新製品・パイプライン

バイオ農薬

2029年:グローバル市場\$9,606M予想 (2024年:\$5,988M, CAGR +10%)

Global Biologicals Market 2019/2024 (\$ m.)										
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2024/2023 (%)	2024/2019 CAGR (%)	2029F	2029/2024 CAGR (%)
Biopesticides	1242	1370	1569	1825	1966	2026	3.0	10.3	3147	9.2
Biostimulants	2290	2599	2994	3534	3821	3963	3.7	11.6	6459	10.3
Total	3532	3969	4564	5359	5787	5988	3.5	11.1	9606	9.9

出典: AgbioInvestor

キードライバー

- 有機農作物の需要の高まり
- 「グリーン」法規制
化学農薬依存脱却、環境負荷軽減をうたい各国でバイオロジカル製品に注目
- 厳格な法規制
化学農薬廃止による選択肢減、バイオロジカル資材のニーズ及び登録承認が加速
- 技術革新
従来の化学製品に比べて明らかに効果が低かったが、新しい製剤技術や新規有効成分(ペプチド、RNAiなど)によって化学製品と同等の効果を持つ資材も創出



「微生物+培養液(代謝物)」からなる
化学保護殺菌剤と同等以上の効果を
有するバイオ資材の開発を目指す

バイオ農薬市場はグローバルでも拡大しており、中でもブラジル市場の成長が著しい

Brazil

Brazil Biopesticides/Biostimulants Market Size - Ex-manufacturer											
	Class	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2028F	2023/2022 %	2023/2018 CAGR (%)	2028/2023 CAGR (%)
Brazil	Biological Crop Protection	138	163	185	230	300	365	866	+21.7	+21.4	+18.9
Brazil	Biostimulants	173	198	221	242	292	365	831	+25.0	+16.1	+17.9
Total Brazil		311	361	406	472	592	730	1697	+23.3	+18.6	+18.4

出典: AgbioInvestor

- ブラジルは世界市場の19%を構成
- ブラジル市場 CAGR+19%(23年-28年) 参考: ブラジル市場 2023年 \$365M、2028:\$866M
- その他、規制面(登録審査期間、農家自家培養)などの優遇あり

■ 現地商業生産

- 液体・固体培養での複数バイオ製品ラインナップの確かな製造実績・知見
- 将来的な設備導入や事業拡張にも柔軟に対応可能な十分なスペースを保有、成長に伴うニーズにも継続的に対応できる体制

➡ スケールアップ後の商業生産のための専任スタッフあり



液体培養プラント

■ 販売チャネルの獲得

- バイオ事業では化学農薬とは異なるチャネルを持つことが重要
- Innovaは5つの支社でブラジル17州での販売チャネル保有(全26州)
- 今後IHARAの販売チャネル・顧客も取り込み更なる強化が見込める
- ボリビア、パラグアイへの展開も可能

➡ さらに、Innovaの製品を当社ブラジル子会社(NCB)が南米各国に拡大



Innova®
AGROTECHNICA



バイオ農薬開発においてIHARA、Innovaとの連携を強化



液体培養プラント
1,000L & 5,000L



液体培養パイロット機
100L



Nissan Chemical
CORPORATION



ジャーファーメンタ
10L

研究体制(基盤、創製、開発、製剤、培養)、製造、登録、販売ルートの構築

日産化学

微生物研究チームの立ち上げ・強化（生物科学研究所 バイオロジカルG）

共同研究

バイオ農薬創製研究、マイクロバイオーム解析技術、新技術導入

共同開発

自社・他社ライブラリー最適化

導入

既存剤導入検討
(グループ会社へもアクセス)

⇒ 拡販・販売ルート、登録制度

参考：過去の買収・導入・出資実績

年	製品名・会社名	備考
2002年	ラウンドアップ	米国モンサント社より国内事業を買収
2009年	パルサー(チフルザミド)	米国ダウ社より世界事業を買収
2014年	エクシレル®／プリロッソ®	米国デュポン社より導入
2015年	トレファノサイド®	米国GOWAN社より導入
2016年	ネクスター®	スイスシンジェンタ社より導入
2017年	トランスフォーム™／エクシード™ ／ビレスコ™	米国ダウ社より導入
2019年	クインテック(キノキシフェン)	米国コルテバ社より世界事業を買収
2019年	スタム	インドUPL社より導入
2020年	ダイセン(マンゼブ)	米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収
2020年	インド・農薬原体製造会社 への出資(NBR)	Bharat Rasayan社との合弁
2025年	ブラジル・バイオ製造販売会社 への出資(Innova)	IHARA社との共同出資

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いします。

本資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。

